

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

February 2019

vol.58

February

S	M	T	W	T	F	S
						1 2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

しょうれんじ 勝蓮寺

所在地：岡崎市矢作町

交通：名鉄名古屋本線「矢作橋」駅 東 約 1.2km

岡崎平野を流れ三河湾に注ぐ矢作川は、15 世紀中頃まで自然の流れのまま流下していたため、中流域にあたる現在の岡崎市付近でもたびたび氾濫し、多くの被害を出してきました。1452 年には岡崎城の築城にあわせ堤防が築かれ、1590 年代には大規模な治水対策としての築堤工事が行われて、川筋は徐々に一本化されますが、下流部はハツ面山（西尾市）にさえぎられ、流れが大きく変わる地点では依然として洪水が多発していました。そこで、徳川家康は矢作新川（現在の矢作川の川道）の開削を計画し、1605 年、それまでの矢作川（現在の矢作古川）から川を付け替え、現在の矢作川の川筋が概ね完成します。こうした河川改修により、洪水の被害は大きく減ってきましたが、その後も何度か大規模な水害が発生しています。

正保 3（1646）年 8 月 5 日には、長雨による増水で上青野西の堤防が 20 ～ 30 間にわたり決壊し、20 軒の家屋が流され、14,5 名が犠牲となりました。この水害では、堤防の決壊による流水で水路ができた場所において、しばらく船での移動を余儀なくされた、などの記録が残っています。

宝暦 7（1757）年 5 月 4 日には、洪水により北野村で 200 ～ 420 間にわたり堤防が決壊します。これは「北野切れ」と呼ばれる大洪水で、被害は 43 か村に及び、堤防の決壊により矢作川は北野～村高間で一時的に流水がなくなる一方、洪水により浸水した地域では一面湖水が広がるような状況となり、約 50 日間冠水状態が続きました。

明和 4（1767）年 7 月 13 日にも、矢作川の堤防が大きな被害を受ける洪水が発生しています。『参河聡視録』には、「13 日洪水、此時渡刈堤、川端堤、大門堤、矢作川堤切込、八町村家居流屋敷水田に成る、松葉橋落、下着町入角より板屋町まで町家分水入、此内流家数多、人牛馬多く死す」と、この洪水の様子が記録されており、矢作川の堤防が数ヶ所で決壊、広い範囲で浸水し家が流され、多くの人が亡くなったと伝えられています。

岡崎市矢作町の勝蓮寺には、この明和 4 年の洪水による犠牲者の供養のための慰霊碑があります。碑の表面には「南無阿弥陀佛」の文字が刻まれ、裏面には「去年七月十三日溺死者若干因為之建焉 維明和五子載七月上旬」と記されています。慰霊碑は、もとは矢作川堤塘上（ていとう）にありましたが、明治年間に勝蓮寺の境内に移されました。

さて、この明和 4 年には、7 月 10 日～ 12 日にかけて尾張地方でも「明和の洪水」と呼ばれる大洪水がありました。明和 4 年の干支にちなんで「亥年の洪水」とも呼ばれるこの洪水では、木曾川で大規模な浸水が発生し、山崩れにより矢田川の流れが変わったと伝えられています。亥年には、宝永地震、関東大震災、伊勢湾台風、阪神・淡路大震災など、過去に大きな災害が発生しており、「亥年の洪水」と呼ばれる洪水は他の地域にも存在します。亥年の年回りに、災害への備えをあらためて考えてみましょう。



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆勝蓮寺の周辺には…

●三郡輪中治水碑・溺死者追悼碑

所在地：岡崎市久後崎町字堤下

交通：名鉄名古屋本線「東岡崎」駅 西 約 600m

久後崎では、明治 15（1882）年の豪雨で堤防が決壊し、43 名の犠牲者を出しました。これを機に堤防の本格的な改修が行われ、明治 18 年に完成します。「三郡輪中治水碑」（写真右）は当時の治水工事の様子を漢文で今に伝えていています。また、隣には豪雨による犠牲者の名前が記された「溺死者追悼碑」（写真左）が建てられています。



◆三郡輪中治水碑・溺死者追悼碑、矢作川堤塘記念碑の位置についての情報は、表面の地図をご覧ください。

●矢作川^{ていとう}堤塘記念碑

所在地：岡崎市矢作町

交通：名鉄名古屋本線「矢作橋」駅 東 約 1.2km

北野（現在の岡崎市）から藤井（現在の安城市）までの矢作川堤 88,200 間（約 15km）の工事完成を記念して明治 22（1889）年に建てられたものです。円筒形の題碑（写真右）と板碑（写真左）からなり、板碑には工事に至るまでの経緯と工事中の出来事が書かれていますが、上部が欠損してしまって、碑文のすべてを読むことはできません。



★滝山寺鬼まつり

滝山寺鬼まつりは、鎌倉時代に源頼朝の祈願から始まったとされる天下泰平・五穀豊穡を祈念したお祭りで、旧暦 1 月 7 日に近い土曜日（平成 31 年は 2 月 16 日）に開催されます。

午後 3 時頃、1km ほど離れた山門から主会場である滝山寺の境内へ巨大な松明が運ばれる「松明行列」でまつりが始まると、その後、境内で太鼓奉納や仏前法要、鬼塚供養（豆まき）などが行われ、クライマックスの「火まつり」を迎えます。「火まつり」



岡崎市観光協会 HP より

では、国の重要文化財でもある本堂に持ち込まれた 30 を超える巨大な松明に炎が灯され、「孫面」「祖父面」「祖母面」をまとった 3 種類の鬼神が炎の中で乱舞し、壮大な演出が行われます。

2 月のあいちの花

平成 31 年 2 月のあいちの花はデンドロビウムです。デンドロビウムは、ネパール、インド東北部、ブータンなどが原産の多年草で、日本での品種改良が世界トップ



NHK みんなの園芸 HP より

レベルを誇るランです。節のある茎状のバルブを毎年数本直立に伸ばし、その節々に花芽をつけ開花するため、たくさんの花が咲き豪華で見ごたえがあります。

通常の開花期は春ですが、冬には園芸店で満開の株が販売されます。落葉してから花が咲く品種と、葉をつけたまま花が咲く品種があります。この時期に流通するものはノビルという原種をもとに交雑育種が行われたノビル系です。

●ブレイクタイム●

♪歴史地震探索まちあるきガイド（東岡崎～岡崎市役所～矢作橋編）

岡崎市の名所や水害にまつわる碑や史跡を紹介したまちあるきガイドです。

岡崎市役所の防災展示コーナーをスタートし、岡崎城や八丁蔵通りなどの名所を訪れながら、表面で紹介した勝蓮寺の慰霊碑や、2016.11 月号で紹介した久後崎の三郡輪中治水碑、弥五騰神社の文政 11 年の大洪水の犠牲者追悼の碑などを巡るまちあるきルートが設定されています。

冊子は岡崎市防災課で入手できます。また、名古屋大学減災連携研究センターの歴史地震研究プロジェクト HP（<http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/>）よりダウンロードできます。



◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減災の会・名古屋大学減災連携研究センター 平成 31 年 2 月）